

図書館だより

武雄高等学校図書館 図書指導部

令和3年11月16日発行

NO. 7



一気に風が冷たくなり、冬の到来を感じる季節となりました。

「芸術鑑賞会」・「クラス読書会」と皆さんにとって、実りの秋になったでしょうか。

佐賀東高校の演劇部による「太陽の羅針盤」も素晴らしい演劇でしたね。

クラス読書会もみんなの意見を交わすことで、新たな発見や視点が見えたと思います。
この機会に、読書に親しんでくれると嬉しいです。



1・2年生の図書委員の皆さん、クラス読書会の進行お疲れさまでした。

3年生の皆さん、息抜きも大事です。メリハリをつけて受験勉強に取り組みましょう。

令和3年度 第67回青少年読書感想文コンクール（高校の部）

- 優良 2年 「人間の悪性」
2年 「変化を恐れない」
- 佳作 1年 「ヒマラヤに学校をつくる」

以上3名の人が、県の審査で入選しました！

おめでとうございます。



《今月の岩波ブックレットの紹介》

『街路樹は問いかける—温暖化に負けない“緑”のインフラ』

藤井 英二郎/海老澤 清也/富内 匡/水真 洋子【著】

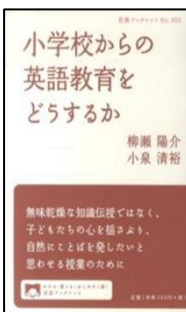


灼熱のコンクリート道に、緑の日傘があったなら。待たなしの気候変動対策に取り組むなか、世界の諸都市は「樹冠最大化」を目標に掲げ、IT技術も駆使して、身近な緑を豊かなものにしている。

枝を短く伐られ、電柱のような街路樹が目立つ日本は、どうしたら変わるのか。

『小学校からの英語教育をどうするか』

柳瀬 陽介/小泉 清裕【著】



間違った方向で進めると、公教育の信頼失墜、格差の固定や疎外感を抱く子どもの増加にもつながりかねない英語教育改革。
グローバル化に踊らされず、多言語・多文化社会で本当に必要とされる力を育む授業とはどのようなものか。英語力ではなく、子どもを育てるのだということに立ち返りつつ、小学校から高等教育につながる英語教育のあるべき姿を保護者や教師と一緒に考える。

新任の先生方のお薦めの本

紹介された本は、図書館に展示していますので、興味のある人は、図書館までどうぞ！（^^♪

（理科）

『旅人 ある物理学者学の回想』

湯川 秀樹【著】（角川文庫）

《おすすめのポイント》↓



日本人で初めてノーベル賞を受賞した物理学者、湯川秀樹が書いた自伝。彼が受賞する理由となった中間子理論の考案に至るまでの人生が書かれています。

（数学）

『春宵十話』

岡 潔【著】（光文社文庫）

《おすすめのポイント》↓



人の中心は情緒である。
日本が世界に誇る大数学の人間論。
（帯より）



新刊図書案内



※紹介できなかった本が、まだたくさんありますので時間を見つけて図書館にGO！

各作品を通してのテーマが隠されたそれぞれのつながりも楽しい短編集

『むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。』

青柳 碧人【著】

日本昔ばなし×本格ミステリふたたび！

2019年4月に刊行されるやいなや瞬間にベストセラーとなった『むかしむかしあるところに、死体がありました。』の続編が誕生。今回収録されたのは、「かぐや姫」「おむすびころころ」「わらしべ長者」「さるかに合戦」「ぶんぶく茶釜」の5編。



『六人の嘘つきな大学生』

浅倉 秋成【著】

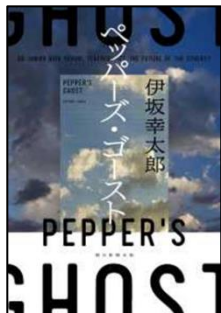
成長著しいIT企業「スピラリンクス」の最終選考。最終に残った六人が内定に相応しい者を議論する中、六通の封筒が発見される。そこには六人それぞれの「罪」が告発されていた。**犯人は誰か、究極の心理戦スタート。**



『ペッパーズ・ゴースト』 伊坂幸太郎【著】

中学校の国語教師・檀千郷（だんちさと）は、受け持ちの女子生徒から自作の小説原稿を渡される。その小説の中では、猫を愛する奇妙な二人組・ネコジゴハンターが大暴れしていた。

そして檀先生は、ある条件下で他人の明日の体験が少しだけ観えるという、不思議な力を持っていた。ネコジゴハンターとは何か。



『ポスト・ヒューマンイズム—テクノロジー時代の哲学入門』

岡本 裕一朗【著】

なぜいま、哲学で「人間」が大きな問題となっているのか。「思弁的実在論」「加速主義」「新実在論」といった話題の現代哲学を解説しながら、その論点をわかりやすく整理。

A I からゲノム編集・機械化による人体改造、そして気候危機に資本主義まで。**私たちが直面しているテクノロジー時代の具体的な問題を踏まえ、起こりつつある思想の地殻変動を描き出す。**



『人新世の「資本論」』 斎藤 幸平【著】

人類の経済活動が地球を破壊する「人新世」=環境危機の時代。

気候変動を放置すれば、この社会は野蛮状態に陥るだろう。

それを阻止するには資本主義の制限なき利潤追求を止めなければならないが、資本主義を捨てた文明に繁栄などありうるのか。

いや、危機の解決策はある。

ヒントは、著者が発掘した晩期マルクスの思想の中に眠っていた。

世界的に注目を浴びる俊英が、豊かな未来社会への道筋を具体的に描きだす！



《小説》

『100万回生きたきみ』（七月隆文）

『変な家』（雨穴） 不動産ミステリー

『准教授・高槻彰良の推察—民族学かく語りき』（澤村御影）

『探偵が早すぎる（上）（下）』（井上真偽）

《教員学部志望の人にオススメ！》

『学校の「当たり前」をやめた。-生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の革命』（工藤 勇一）

『みんな自分らしくいるためのはじめてのLGBT』（遠藤まめた）

『公共貨幣入門』（山口 薫/山口陽恵）

《医療関係の志望の人にオススメ！》

『新薬に挑んだ日本人科学者たち-世界の患者を救った創薬の物語』（塚崎 朝子）

『山中静夫氏の尊厳死』（南木 佳士）

『（新版）老人の取扱説明書』（平松 類）

『適応障害の真実』（和田 秀樹）

《経済・商・経営学部志望の人にオススメ！》

『食べ物から学ぶ世界史—人も自然も壊さない経済とは？』（平賀 緑）

『ソニー再生 変革を成し遂げた「異端のリーダーシップ」』（平井一夫）

『世界を変える5つのテクノロジー SDGs、ESGの最前線』（山本康正）

『日本の食と農の未来-「持続可能な食卓」を考える』（小口広太）

《環境問題について興味ある人にオススメ！》

『極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか 気象のしくみを理解し、地球温暖化との関係をさぐる』（川瀬宏明）

『ドローダウン 地球温暖化を逆転させる100の方法』（ポール・ホーケン【編著】）

《スポーツ》

『桃田賢斗が世界一になった30の理由』（桃田賢斗/中西 洋介/佐藤翔治）

《少子高齢化について興味ある人にオススメ！》

『世界100年カレンダー 少子高齢化する地球でこれから起きること』（河合 雅司）